

幾坂 40 号墳

幾坂 40 号墳は、丹後半島最大の中郡盆地を西に見下ろす丘陵上に位置し、盆地との比高は 60m を測ります。丘陵斜面の崩落が著しいため築造当初の墳形はわかりませんが、地山を削り出した平坦面で3基の埋葬施設が見つかりました。中心の埋葬施設は、長さ 6.7m、幅 2.7m、深さ 1.3m に掘りくぼめられ、その中央に全長約 4 m の組合



幾坂 40 号墳中心埋葬

式木棺を納めていました。

棺内から剣、刀、やじりなどの鉄製武器と鉄製の釧、玉類、<sup>たてくし</sup> 豎櫛などの装身具が出土しました。また、棺外からは槍、<sup>ほこ</sup> 鉾、やじりなどの鉄製武器とともに黒漆塗りの革製の盾が出土しました。この盾は、なめした動物の皮を木枠に貼り、皮の表面には刺縫いによる鋸歯文や菱形文、<sup>あやすぎ</sup> 綾杉文があしらわれています。長い年月を経て、表面の漆の被膜だけが残っていました。当時の技術の高さがよくわかる貴重な発見となりました。

京都府北部における古墳時代の盾の出土は、初めてであり、畿内政権と親密な関係をもった有力者の姿が浮かび上がってきます。



遺物が語る京都の歴史

盾持ち人はにわ (亀岡市時塚1号墳)



時塚1号墳出土盾持ち人埴輪

5 世紀後半に築かれた一辺 24m を測る方墳の北東隅から出土しました。眼の周りには入れ墨を施し、頭には被り物を載せています。古墳に侵入しようとする悪しきものを退けるようににらみつけています。同じ意匠の埴輪が、時塚1号墳から約 1 km 北西に

所在する同時期の坊主塚古墳からも出土しており、どのような関係があったのか、今後の課題です。

参考 亀岡市坊主塚古墳出土 亀岡市文化資料館保管

発掘調査

よもやまばなし

大切な現地での説明会！

現地調査の終わりごろに、遺構や出土遺物などをご覧いただく説明会を現地で行っています。遺跡の大切さや面白さを伝えるため、写真パネルやイラストなども展示します。開催案内は随時 HP や SNS でお知らせしています。ぜひ、お越しください！



【発行日】令和 7 年 2 月

【編集・発行】公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617 - 0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40 番の 3



HP



X



facebook



instagram



2024

もっと知りたい

京都の遺跡

第 15 号

江戸時代の 大ベストセラー

は さ み

波佐見焼

—くらわんか—



写真：木津川・宇治川・桂川三川合流地点 遺物：平安京跡左京一条三坊三町出土



波佐見焼が焼かれた長さ 160m、33 段の巨大窯 (中尾上登窯跡) 文化庁文化財デジタルコンテンツより

### 長崎県波佐見町で生まれた波佐見焼

九州では 16 世紀末から 17 世紀初頭にいわゆる唐津焼の生産が始まり、17 世紀初頭より磁器生産が始まります。その後、波佐見では青磁を中心とした高級品を生産し、海外へ輸出していましたが、中国が陶磁器の輸出を再開すると方針転換して、元禄年間 (1688-1704) より国内向けで安価な日用磁器として通称「くらわんか」の生産を開始します。



三十石船の乗客に飲食物を売るくらわんか舟  
歌川広重「京都名所之内 淀川」天保 5 (1834) 年より一部拡大  
国立国会図書館デジタルコレクションより

## 江戸時代の大ベストセラー

# 波佐見焼

—くらわんか—



### くらわんかとは

波佐見を中心とする各地で生産された安価で粗製の器の総称です。

大坂・京都間の交通を担った「三十石船」に「めしくらわんか! 餅くらわんか!」と荒々しく声をかけて売り掛ける商いで用いられたことから、そのかけ声より「くらわんか」とよばれるようになりました。器壁は分厚く、素朴で暖かみのある器です。歌川広重「京都名所之内 淀川」には淀川を往来する三十石船に飲食物を売るくらわんか舟が描かれています。

### 波佐見・くらわんかのある時代

江戸時代の食卓を彩る「くらわんか」は幕末まで続く世界 1 位から 3 位の規模を誇る巨大な窯により生産され、まさしく「大ベストセラー」となりました。そして現代、全国各地の遺跡からその姿が確認できます。

## 京都府内から出土した「くらわんか」

全国各地の農村から都市に至るまで大量生産されて流通した「くらわんか」は京都府内でも農村から城下町といったあらゆる場所で出土しています。府内の出土例の一部を紹介します。

### 舞鶴 (田辺)

田辺城三の丸において家臣団が住した武家屋敷で行われた発掘調査では、武家屋敷が湿地化して荒廃した後に水田として利用されたことがわかりました。整地層から江戸時代後半の遺物が出土しており、その中に「くらわんか」が含まれていました。

### 園部

園部陣屋跡の発掘調査では、長径 3 m、短径 1.3m を測る土坑から、様々な江戸時代後期の遺物にまじって「くらわんか」が出土しています。



八幡



京都

桂川・宇治川・木津川が合流し淀川になる木津川河床遺跡の一角は、三十石船が往来し、くらわんか船が食べ物を売り掛けていました。明治時代に造られた護岸などから、江戸時代の「くらわんか」が出土しています。

京都府庁内の発掘調査で明らかとなった、江戸時代後期の町家跡からも「くらわんか」が出土しています。全国から様々な器が入ってきた京都でも「くらわんか」の姿をみることができます。

### くらわんかは現代でも

城下町などの都市のみならず、農村からも「くらわんか」が出土しています。まさしく広く受け入れられた「ベストセラー」であったことがうかがえます。そして「くらわんか」が広く受け入れられた結果、現代でも白地に青い文様が描かれた染付の器を食卓に用いる習慣が受け継がれているのです。



近世	江戸時代
中世	室町時代 南北朝時代 鎌倉時代
古代	平安時代 奈良時代 飛鳥時代
古墳時代	後期 中期 前期
弥生時代	後期 中期 前期
縄文時代	晩期 後期 中期 前期 早期 草創期
旧石器時代	